早稲田大学　社会科学部　政治･経済　講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問４題は例年と同じ。 政治と経済が２題ずつ。超難問が含まれるのは相変わらず。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	日本の行政機構	明治憲法や外国をバランスよく採りあげている。問８：防衛施設庁の廃止は守屋事件の陰に隠れてしまったが時事問題だ。	標準
Ⅱ	企業グローバリゼーション	受験生泣かせの詳しすぎる問題が集中している。問４：カルテルは「不当な取引制限」である。「不公正な取引方法」と区別できない受験生は多かったはず。問８：近年の金融改革について詳細な知識が問われる。問９：代替工業化政策は難しい。	難
Ⅲ	市場経済と政府の役割	原油価格の高騰を素材にした出題。問１：正確にはわからなくても推測で答えられるはず。	やや易
Ⅳ	教育を受ける権利	最高裁判例を素材とした工夫された出題。問５：判決を読んでいなくても推測できるはず。問６：憲法の内容についても注意深いていねいな学習が必要な例。問７：教育基本法改定の「目玉」としてとりあげられていたのが「愛国心」の扱い。このことくらいは授業で採りあげたであろうから、これだけ知っていて、正解した受験生も多いだろう。問10：旭川は資料集をていねいに読んでいた受験生だけが答えられたであろう。	やや難

〔総合コメント〕

早稲田の他学部よりは答えやすい問題が多いように思われるが、Ⅱのような難問も必ず出題される。いわゆる難問に目が行きがちだが、基本的な問題を取りこぼさないように基礎を固めることが必要である。その上で、過去の問題を解き「ここまで出題されるんだ」ということを実感し、その内容を教科書・用語集・資料集などで確認しながら、基礎・標準的知識に上乗せしてゆくことが必要である。そして新しい事項については、新聞のニュース解説を読む努力を惜しまないことだ。